2020年08月29日 中日新聞 朝刊 13頁

愛教大 オンライン授業 佐久島

情報モラル 中学生学ぶ

愛知教育大（刈谷市）と昨年開校した小中一貫の義務教育学校の佐久島しおさい学校（西尾市一色町）の教室をオンラインでつないだ双方向型の授業が二十七、二十八両日に行われた。愛教大の「六年一貫教員養成コース」の学部生と大学院生が毎年、島を訪れて授業しており、今年は新型コロナウイルス感染対策のため初めて遠隔で実施した。

（神谷慶）

画面の向こうの佐久島の生徒に向けてＳＮＳの特性を説明する原田さん（手前）＝刈谷市の愛知教育大で

情報モラルの授業で、ＳＮＳに写真を載せる際の注意点を学ぶ生徒たち＝西尾市の佐久島しおさい学校で

しおさい学校には児童・生徒二十五人が通う。養成コースの学部三年から大学院修士二年の学生は、学校側の希望に合わせた教材を作り、中学生の授業を二〇一四年度から続けてきた。今回は中学生向けに会員制交流サイト（ＳＮＳ）を安全に使うための「情報モラル」の授業と、小学三、四年向けにスーパーの工夫を伝える社会科の授業を準備した。

二十七日は中学一、三年生五人が情報モラルを学んだ。ビデオ会議システム「Ｚｏｏｍ（ズーム）」で愛教大としおさい学校のパソコンをつなぎ、教室のモニターに表示。学部三年の原田瑛公（えこう）さん(二)が、パソコン画面に映る生徒の様子を確かめながら四十分間話した。ＳＮＳが情報収集や宣伝に役立つことを説明する一方、「全世界の人に見られる。写真を載せたら一生残る可能性もある」と注意点を伝えた。修士二年の松田惇（すなお）さん(二)が授業を補助した。

双方向型の学習支援アプリも活用。生徒はタブレット端末を操作し、カップルや友達同士で写るなどする五枚の写真を「ＳＮＳに投稿しても問題ない」と思う順に並べ替える作業に取り組み、理由を発表。八人が写る集合写真には「全員に許可を取れば載せても良いと思う」との意見が出た。ある生徒は「ＳＮＳは悪いものではないけれど使い方を間違えると怖い。正しく使いたい」と感想を述べた。

原田さんは「主体的に考える時間を多く取るよう工夫した。作業の過程が見えにくいなどオンラインゆえの難しさは感じたが、多くの意見が上がってうれしかった」と話した。

（c）.中日新聞社　無断転載、複製、頒布は著作権法により禁止されています